

第2回研修会

令和6年9月13日(金)、女性部会令和6年度第2回研修会を熱田神宮会館で開催いたしました。残暑とは名ばかりの仲秋ですが、23名に参加頂きました。ご足労を頂いた方々に心から感謝申し上げます。

今回の講師には、小説家の奥山景布子様をお迎えし、「イマドキの源氏物語～フェミニスト紫式部の生活と意見～」と題して講演頂きました。

愛知県出身の講師は、名古屋大学大学院文学研究科後期課程を修了された文学博士で、研究の専門は、中古・中世文学です。小説家としては、2007年「平家蟹異聞」で第87回オール読物新人賞受賞、2009年に受賞作を含む『源平六花撰』で単行本デビューを果たし、2018年には『葵の残葉(あおいのぞんよう)』で第37回新田次郎文学賞、第8回本屋が選ぶ時代小説大賞をダブル受賞されました。このほか、『ワケあり式部とおつかれ道長』はじめ多数の著書があり、児童向けの執筆活動やウェブマガジン連載、NHKカルチャー名古屋栄教室の講師もされるなど、多彩

な活動をしていらっしゃいます。

講演では、日本語の漢字・仮名から始まるジェンダー、作者名が残されている『源氏物語』の特異性、『紫式部日記』を引用した時代背景や当時の女性の娯楽、男性目線の研究でこぼれた部分などをわかりやすく説明して頂きました。そして、『源氏物語』の登場人物である「夕顔」「紫の上」の二人の女性に焦点をあて、「光源氏」から見た女性たち、彼女たちから見た彼という異なった視点、また、文章に見え隠れする実際の彼女たちの生活や境遇などを熱く語って頂きました。大河ドラマ「光る君へ」と似通った題材ながら、別方面からの解釈を大変興味深く、楽しく聞かせて頂きました。

なお、社会貢献事業のタオル寄贈については、皆様にご協力を頂いております。集まったタオルは、管内の消防署や社会福祉施設等にまとめて寄贈予定です。誌面をお借りして御礼申し上げます。

なお、社会貢献事業のタオル寄贈については、皆様にご協力を頂いております。集まったタオルは、管内の消防署や社会福祉施設等にまとめて寄贈予定です。誌面をお借りして御礼申し上げます。



視察研修会

令和6年10月9日(水)、女性部会令和6年度視察研修会を開催いたしました。今回は、33名が参加されました。

小雨のばらつく中での出発でしたが、福井へ向かうバスの中、どんどん天気がよくなっていき、賤ヶ岳サービスエリアに着く頃には日差しが強めの秋晴れとなりました。きっと、参加者の日頃の心がけのよさが反映されたのでしょう。

最初に訪れたのは、2022年10月に開館した一乗谷朝倉氏遺跡博物館です。但馬(兵庫県)の朝倉谷出身の朝倉氏が斯波氏の家



臣として越前(福井県)に移り住み、越前朝倉氏と呼ばれる初代孝景から義景までの5代で約100年の歴史や時代背景を学んでから、ガイドさんの案内で館内を回りました。知識欲を刺激する教養の秋を満喫です。館内には、足羽川の川湊「一条の入り江」の一角とも考えられる石敷遺跡の露出展示や、大量に発掘された品々の一部、5代当主義景が暮らした朝倉館の一部を原寸で再現したものなどがあり、時間の許す限りじっくり拝見しました。



昼食は、博物館と遺跡の間にある一乗谷レストランで頂きました。コロナ禍終了ということで各々歓談しながら、手打ちそばや旬の料理、デザートに舌鼓を打ち、食欲の秋を楽しみました。

午後は、現地ガイドさんに導かれて、国の三重指定(特別史跡指定、特別名勝指定、重要文化財指定)を受けた一乗谷朝倉氏遺跡の復原街並と唐門を散策しました。昭和に発掘を始めて50年以上、城下町の遺跡がまるごと残っているため、発掘が終わったのはわずか8%程度で、気長に作業を続けているそうです。

この街並は、戦国時代の石組みがそのまま残る中、家の柱を建てる礎石が現存したことが幸いし、その礎石を使用した建物が再現されました。遺跡から瓦が発掘されなかったことで板葺屋根と断定できたく、武家屋敷や紺屋、道の造りなどから当時がい起こされました。

ガイドさん曰く、「義景と織田信長は同僚だったんですよ。歳は一つしか違わないし。信長は、よく話題に上るイケメンが演じるけど、義景ももっと取り上げられるといいですね」とのこと。堅実ながら一人一人に派手さがないためか、クローズアップされる機会の少ない越前朝倉氏ですが、100年続いた歴史と文化は、後世に誇るべき偉業ではないでしょうか。

散策後は、南条サービスエリアでお土産を選んでから帰路につき、車窓風景を楽しみつつ、予定通り帰着しました。参加者の方々にも楽しんで頂けたかと存じます。

最後に、日頃から支えて下さる会員の皆様から御礼申し上げます。